職員研修

私たちも町長講演や戦略会議に出席し勉強しています

※レポートより一部抜粋して掲載。

境町に注目が集まっています

■平成29年11月17日
2017中央大学・都市経営シンポジウム
テーマ：「東京多摩圏の地方創生ーその新たな展開」

REPORT01

保険年金課
課長補佐 川上 透

レベルアップして質の高い住民サービスを行いたい

町長は困難と言われた財政再建に積極的に取り組み、歳出を削減するのではなく新たな収入を増やす施策への転換に着手しました。「ふるさと納税」という新たな歳入の確保、新たな子育て支援政策等による人口増加など、境町のような小さな町でも「新しい事にチャレンジする勇気とアイディアそしてスピード感をもって施策を行えば必ず財政は再建する」と住民の皆様も感じたことと思います。

30分という限られた時間の中、町の先進的な施策に要点を絞った伝え方はプレゼンテーションの勉強にもなり、業務に生かしていきたいと思います。今後もこういった研修に積極的に参加し、職員一人ひとりがレベルアップして質の高い住民サービスができるよう努めていきたいと感じました。

REPORT02

企画経営課
主事 大島 巧也

町長の姿勢を参考に境町へ還元できる行動をしたい

町長は、就任以降、スピード感を持って自らが率先して積極的に動き、町民に対してどうやったら還元ができるかを考えながら行動されています。そのリーダーシップやトップセールスにより、境町では先進的な政策や、様々な政策が行われてきました。

その結果として、現在、他の自治体や行政が、多数視察に来ており、シティプロモーションになっています。このような町で、町長のもと仕事をさせていただいていることは、とても貴重なことだと思います。

研修として、このような講演の場に参加をさせていただき、町長の背中、考え方、行動を見る機会を与えていただいていることを無駄にせず、役場職員として、境町へ還元できるように行動していきたいと思います。

■平成29年9月2日
2017年度日本学術会議シンポジウム
テーマ：「地方創生の取組とこれからの課題」

REPORT03

農業政策課
主事 古宮 康平

住民の声に耳を傾けて地域発展を考え、迅速に対応したい

町長は、就任後から財政再建・ひとの創造・人口増加の3つの施策に重点的に取り組み、スピード感を持った行政を目指していることについて説明され、なかでも、ふるさと納税の実績と財政負担比率の改善策は、会場にいる方々の強い関心を感じました。限られた講演時間の中でも、要点を絞り分かりやすく伝える話し方は大変勉強になりました。

今回の講演を通じて、日本の人口減少と都市部への人口一極集中における弊害を認識し、地方自治体の活性化が基礎となり都市部へ波及することで、相乗効果が得られることを学びました。自治体職員として、常に住民の声に耳を傾け、地域が発展するためには何ができるか考え、迅速に対応していかなければならないと感じました。

REPORT04

上下水道課
主幹 初見 俊宣

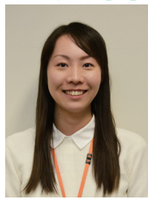
境町の将来に向けて一人一人が考える力を！

町長は、就任当初の境町は将来負担比率が184％で将来的な財政難だったことを挙げ、「財政再建」「ひとの創造」「人口増加政策」の3つの柱のもとに、平成28年には136％まで減らしたことを説明されました。

今回、地方創生が叫ばれている根底には人口の減少があり、大都市は利便性から現在の人口を保っていることが明確になりました。土屋衆議院議員の「東京のエネルギー還流」という言葉、十日町市長、境町長の「人口の取り合い」という言葉は「大都市のエネルギーの奪い合い」とも捉えることができ、地方自治体の破綻や消滅の可能性も考えさせられるものでした。私たちの地域も例外ではなく、将来に向けてどうしていくべきか一人一人が考えていかなくてはならないと感じました。

■平成29年4月25日
明治大学町長講演　テーマ：「自治体トップが語る自治体行政と地域政治」

REPORT05



総務課
主事 白井 優子

現状に満足せず、向上心と行動力を持ち続けたい

今回の明治大学での町長講演を聴講し、学生も熱心に耳を傾けており、次々と出てくる政策の数々に驚いた学生も多かったと思います。

補助金の獲得もそうですが、いかに情報を得るか、効果的な政策をうつことができるか、同じことをやるにしても情報収集・発信、政策内容など「やり方」ひとつで結果が大きく異なることはまちづくりだけでなく普段の業務においても通じるものがあると感じました。普段の行動を振り返って、どうすれば短時間で最大の効果が得られるのか考えながら行動していくよう頑張りたいです。

町の予算が約100億円と限られている中で、どうやって将来負担比率を下げていくか、補助金の獲得やふるさと納税等の制度を活用して新政策に取り組みつつ財源を増やしていくのか、水害などの災害から住民を守るためどのような対策をうつのか、抱える問題は多いですが、町長のおっしゃっていた職員、議会、住民が同じ方向へ向かってまちづくりができるよう情報を共有し、町のために危機感を持って行動していかなければならないと思います。そのためにも職員一人一人が現状に満足することなく、当事者意識や向上心を持ち続けなければならないと思います。

現在、境町は先駆者としてメディアに数多く取り上げられたり、日本のみならず海外からも視察が訪れる町となりましたが、今後は町関係者だけでなく民間企業（企業版ふるさと納税、企業立地等）、他市町村を巻き込み町内からも町外からも境町の魅力を発信することで、住民の方の地域愛やさらなる魅力の発見から、「選ばれる町　住みたい町　さかい」へとつながると考えます。

最後に、質問をした男子学生が講演終了後にぜひ境町でインターンシップを行いたいと連絡先と申込方法を聞いてきたことが非常に印象的であったと同時にその行動力を見習わなければと思いました。

REPORT06

まちづくり推進課
主事 野村 恵

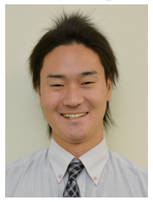
高校生にも町の革新的な取り組み・魅力を伝えたい

講義終了後には、学生から町長へたくさんの質問が寄せられました。「自治体職員として働くために、大学生のうちにできることはあるか」という質問に対し、インターンに参加することのほかに、実際に地域に足を運び、自分の目で見ることの重要性を強調していました。

実際に足を運ぶことの大切さについての町長ご自身の体験として、行政報告会で各地区を個別に訪問し町の政策について説明することで、地元住民の理解を得たとおっしゃっていました。年配の方だけでなく、就職や進学のために町を離れる可能性のある高校生などにも、今回のような講演をしていただきたいと感じました。高校生に、境町はいま様々な革新的な取り組みをしていることを伝えることで、地元を離れる若者の数を少しでも減らせるのではないかと思います。

■平成29年2月23日
まち・ひと・しごと創生本部会議

REPORT07



生涯学習課
主事 土屋 勇人

全国に注目される町として町の魅力や個性を磨きたい

冒頭で上映していた、圏央道開通の映像を見て、全国が注目していることを再確認しました。各地で、圏央道開通により人の動きやお金の動きが期待されている中、境町に人を呼び込むことが、境町を知ってもらえる良い機会になると思います。

その取り組みの一つとして、道の駅のリニューアルがありました。さしま茶サロンの設置や梅山豚の鉄板焼きなど、自分でも行ってみたいと思えるような内容でした。今後は町外の方から「道の駅があったから寄る」のではなく、「境町の道の駅に行こう」と言われる施設になっていくのだと感じました。

市町村の競争が激しさを増すなか、境町の魅力や個性が求められています。PR方法も、現代のニーズに合わせ、新聞広告などから、SNSを活用する方法へ変わってきているということを学ぶことができました。

■平成29年3月23日
戦略会議

REPORT08

健康推進室
室長補佐 落合 成雄

境町の職員である自覚と責任感を持ち職務に邁進したい

境町では、町の政策及び運営に関して、自治体経営の観点から専門的な知識や民間の経営的な意見を聴取し、効果的かつ効率的な政策を推進するため、「境町戦略会議」を定例で開催しています。

この会議で、全国各地の成功事例を研究し境町モデルとし発案された事業は、スピード感を持って実行に移されて行きます。今後来るべき社会、そして今やるべきこと。戦略会議でも町長のそんな想いを目にすることができました。ひとつひとつを確実に着実に実施することによって、境町はより住みやすい町、選ばれる町に発展していくと思います。また、その先にある課題をも乗り越えていくことができると信じています。

私もそうした自治体の職員であるという自覚と責任感を持ち、職務に邁進していきたいと思います。